

私流家庭菜園でそら豆栽培

寄稿：千葉県茂原市 房州うちわ

私流の家庭菜園での試みです、畑に結界を作りました。

EM 団子と炭を 2m 間隔に埋め込み、EM スーパーセラ発酵 C と炭を入れた活性液のペットボトルも 2メートル間隔に地表に半分出るように埋めて地表近くにミニロープをつないで、支柱の最上部のミニロープと波動源のペットボトルと整流シールで結界を作りました。EM ボカシや EM で処理した生ごみを使わずに EM1 号に EM3 号を半分加えて培養した海水活性液を使つての栽培です。素晴らしい成果が得られたので報告します。

家庭菜園での苦勞・草取りから解放され、美味しいそら豆に出会えました。今回の報告で一番伝えたいことは、今まで感じたことのない不思議な感動なのです。

私がそら豆を栽培した畑は、私が住む団地の中の一画で、今回そら豆栽培用に A 区と B 区それぞれ 20 m²ずつに分けました。

A 区は道路をはさんで東側に二階建てがあり南側は空き地です。B 区は畑の東側と南側には二階建ての家が地続きで建てていて日陰です。

それでは、昨年 10 月 25 日の種まきから今年 5 月 16 日の収穫までの記録を報告します。

2017 年	10 月 25 日	種まき：タネは「河内一寸そらまめ」と「一寸そらまめ」です 写真①
	11 月 16 日	定植：種まきから 23 日目のそら豆苗を定植しました。写真② A 区 20 m ² (塩 105g/m ²) 36 本定植 畝幅 1.5m 株間 60 cm 2 列植え B 区 20 m ² (塩 400g/m ²) 16 本定植 畝幅 1m 株間 60 cm B 区の半分は 都合でニンニク を植えたので、そら豆は 10 m ² です。
	12 月 16 日	定植後 1 か月：B 区は冷たい西風が吹き抜けるので根元にモミガラと敷草をしました。
2018 年	1 月 16 日	定植後 2 か月：B 区は日照時間が短いので、小さいです。
	2 月 16 日	定植後 3 か月：1 月 22 日の雪は 20 cm ほど積雪して家々の北側の雪は 1 週間融けませんでした。日中の最高気温が 4℃ 以下ではそら豆も 朝、霜で「伏せ」をしたままの姿勢でした。
	3 月 16 日	定植後 4 か月 写真③ 冬の寒さが厳しく、そら豆の花が枝の下の方から付きはじめるそうです。茂原でも、下の方から花芽がついていてビクッしています。そら豆の 莢は緑色をしているので、莢も光合成をしていると聞いたことがあります。よりたくさん花や実を付けさせようと茎を倒して負荷をかけて、節や丈を短く育てています。
	4 月 16 日	定植後 5 か月 開花結実時期は水分を多く必要な時期だそうで、ほとんど毎日灌水しました。A 区、B 区ともそら豆のために元肥に相当する有機物は全に入れていません。B 区は今までに耕起したことが無く、雑草が茂っていて、夏場に冬瓜やカボチャのツルが伸びていた場所です。3 月 26 日に米ヌカを地表に撒きました。A 区は、EM で処理した生ごみを使って野菜を育てていた場所です。天然有機質 100 パーセント「バットグアノ」(ごもりのフン) を株間に少し入れました。開花からおおよそ 35 日～50 日後が収穫だそうで、咲いていない蕾は摘み取りました。
	5 月 16 日	定植後 6 か月 5 月 1 日に 1 回目の収穫 5 月 16 日に 2 回目の収穫 そら豆を蒔いてから 203 日目。写真④、⑤



写真①10月25日種蒔



写真②11月16日定植



写真③3月16日定植後4か月莖倒し



写真④A区の収穫されたそら豆
(真ん中は 100 円硬貨)



写真⑤B区の収穫されたそら豆
(真ん中は 100 円硬貨)

【感想 1】1 回目の収穫の時 B 区の豆が各段に甘かったのは灌水の量の差だと思います。B 区：A 区 = 2：3 の割合でした。その後 5 月に入つてからは定期的に雨が降ったので灌水はしていません。2 回目の収穫の豆の味の違いは感じられませんでした。

【感想 2】B 区は冬の間は日陰でそら豆には適さないと考えていましたが間違いでした。葉と葉の間が狭く、強風にも耐え環境に適合して育ち、しっかりとした豆をつけました。土を起こして有機物を投入することなく、そら豆ができました。比嘉先生からの Web 情報 (エコピュア 120 回・128 回) によると、そら豆は塩に弱い作物ですが、塩 400g/m² で良い結果が出て嬉しかったです。